

1年生平和教育

10月31日・11月14日の総学・LTの時間に平和教育を行いました。来年度から修学旅行先が長崎になるため、事前にいろいろ学習し、修学旅行をよりよいものにしたいと考えたからです。31日は「カラーで見る太平洋戦争」、14日は「神風特攻隊員達の遺書」と「原爆の絵」という動画を見ました。生徒は真剣に見ていろいろ感じた様子でした。31日は感想を書き、14日はグループに分かれて感想を発表しました。

感想の一部抜粋

「カラーで見る太平洋戦争」

- ・まだまだ最近のことなのに、私たちは過去の戦争に余り関心がないなと思いました。
- ・原爆で一気にたくさんの人たちの未来が絶たれたことに憤りを感じました。二度とこのような悲劇が起こらないように、唯一の被爆国である日本の若者がこの出来事を世界に伝えていく必要があると感じました。
- ・もし、自分の先祖がこの戦争で亡くなっていたら、今ここに自分は存在しないと思うと、他人事とは思えません。この戦争で生き延びた人も大切な人を失ったり、後遺症で苦しんだり大変辛かっただろうなと思いました。
- ・自分たちと同年齢の人が戦争に行って戦場で戦っていたと思うと、とても悲惨だと思いました。今ある生活はとても幸せで、感謝して生きていきたいと強く思いました。
- ・国のために命を捧げた人たちの生きた証を、次の世代に伝える義務があると思いました。
- ・撤退を転進、敗北を玉砕などと美しい言葉でごまかして国民に伝えていたことを知り、間違っていると思いました。「人類よ、戦争を計画してくれるな」という言葉が胸に響きました。
- ・当たり前のようにご飯が食べられる事や勉強できる事がどれだけありがたいことか、改めて実感しました。
- ・戦争があった時代は、生きたくても生きることが難しい毎日だった事を悲しく思いました。

「神風特攻隊員達の遺書」

- ・どの遺書にも不平・不満は書いてありませんでした。遺書には家族への愛がとても強く感じられました。
- ・どんな気持ちで遺書を書いたのかと、とても悲しくなりました。
- ・ただただ、悲しい、の一言です。家族や愛する人ともっとずっと一緒にいたいと言う気持ちが伝わってきました。
- ・形見を見て親に泣かれたくないから、形見を残さないという選択肢はすごいと思いました。
- ・誰も愚痴をこぼさずに特攻隊員として死んでいくことに違和感を覚えました。
- ・特攻隊の恐ろしさに驚きました。この時代の人々の考え方は残酷だと思いました。
- ・遺書を読んでやっぱり特攻隊の人たちも死にたくなかったんだと思いました。

- ・国のために死ぬ事が誇りである、と思っている事が悲しくむなしすぎると思いました。

「原爆の絵」

- ・亡くなった人よりも、生き残った人の方つらかったのではないかと感じました。
- ・電車の中から黒焦げの死体が出てくるなんて、想像できません。
- ・川に死体がいっぱい浮いているなんて、悲惨だと思いました。
- ・戦争の悲惨さ、直後の生活の大変さを知ることができました。
- ・小さい頃の事なのに鮮明に覚えているということは、それだけ被爆と言うことはすさまじい事だったのだろうと思いました。
- ・どの絵も印象的で残酷で言葉になりませんでした。母親が亡くなった三歳の我が子を泣く泣く焼く絵は印象的でした。